

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	音声学 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員	田中 良				
実務経験と その関連資格					
《授業科目における学習内容》					
言語音の詳細、音声記号、音素と異音を中心として特に日本語の言語音について理解する。本授業の内容、配布資料のみで国家試験の音声学分野に対応できる範囲を網羅する。また、単なる試験対策ではなく、音声に対する本質的理解により、人間の発する音声の世界観を掴む。					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験(100%)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
《授業外における学習方法》					
配布した授業資料を丁寧に復習すること。					
《履修に当たっての留意点》					
音声記号の名称には、1つ1つの言語音の産出の仕方の要素がそのまま表われているので、名称を分解して丁寧に実際の音に結び付けながら理解する。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	授業の概要について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	音声学の概要			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	母音の特徴について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	母音			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	子音を構成する3要素について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	子音1 カ行子音からワ行子音			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	1つずつの音に関し、基本の子音と変わる要素について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	子音2 濁音の子音・特殊拍の子音			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	位置によって変わる、基本の子音との違いの要素について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	音声記号での記述1 語頭音・語中音での記述			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	語を音声記号に置き換えられるようにする。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声記号での記述2 語の記述		
第7回	授業を通じての到達目標	特殊拍を持った語を音声記号に置き換えられるようにする。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声記号での記述3 特殊拍を持った語の記述		
第8回	授業を通じての到達目標	あらゆる語を音声記号に置き換えられるようにする。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声記号での記述4 書き取り完成		
第9回	授業を通じての到達目標	音声記号との違いを理解する。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音素・異音		
第10回	授業を通じての到達目標	あらゆる語を音素記号に置き換えられるようにする。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音素記号での記述		
第11回	授業を通じての到達目標	発声のメカニズムと部位について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	発声発語器官1 発声器官		
第12回	授業を通じての到達目標	構音のメカニズムと部位について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	発声発語器官2 構音器官		
第13回	授業を通じての到達目標	日本語に現れる可能性のあるすべての音について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声記号での記述5 日本語の全異音		
第14回	授業を通じての到達目標	精密な音声の要素について理解する。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声記号での記述6 精密な表記		
第15回	授業を通じての到達目標	音声学 I のすべての項目を定着させる。	配布資料	配布資料を確認する。
	各コマにおける授業予定	音声学 I の総復習		